

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回ふじみ野市社会教育委員会議			
開催日時	令和6年10月7日（月） 開会時刻 午前 9時30分 閉会時刻 午前11時00分			
開催場所	ふじみ野市役所 第2庁舎 3階 B302会議室			
出席した者の 氏名 （委員15人 中12人出席）	役職名	氏名	役職名	氏名
	議 長	齊 藤 宏	委 員	小 澤 真 樹
	副議長	中 窪 由香理	委 員	岩 舘 豊
	委 員	山 口 ゆかり	委 員	矢尾板 俊 平
	委 員	千 葉 信	上福岡西公民館長	内 田 徳 子
	委 員	石 川 健 一	歴史民俗資料館長	井 上 樹 朗
	委 員	今 井 志 子	歴史民俗資料館	田 中 桃 子
	委 員	江 科	事務局(課長)	木 村 裕 之
	委 員	長谷川 節 子	事務局(副課長)	小 林 久 美
	委 員	大 久 保 昭 男	事務局(専任主査)	高 崎 直 成
会議の議題	1 審議事項 （1）諮問「市民とともにつくる社会教育事業のあり方について」答申案検討 （2）新資料館の展示基本設計の内容について 2 報告事項 （1）新資料館名称について （2）上福岡図書館開館時期について 3 その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	1人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和6年10月31日		
	記名押印	役職名 議 長 齊 藤 宏 ㊟		

別紙

発言者	発言の要旨
木村課長	開会の挨拶 ・傍聴者 1 名の報告 ・出席者 1 2 名、欠席者 3 名で会議成立の報告 ・事務局以外の説明員の紹介
齊藤議長	議事進行 配付資料の確認
事務局 (小林)	事前及び当日配付資料の確認
齊藤議長	議事進行 ・説明員の関係で議事 2 を先に審議 1 審議事項 (2) 新資料館の展示基本設計の内容について
田中係長	資料 3 (仮称) 大井郷土資料館大規模改修工事展示設計協議資料及び新資料館展示設計(案) に基づき説明
齊藤議長	議事進行 質疑応答
山口委員	子供たちのスペースや身近な作品を展示できるところがあり、ワクワクしている。開館が楽しみ。
大久保委員	今までは郷土資料館だったが、(仮称) 博物館となるからには、博物館として何が足りないのか検討していく必要がある。 新住民が半数以上いる中で、まちへの愛着や郷土理解をすすめる必要がある。多くの人が地域に関わっていないが、講座の開催などで機会をつくり、まちに愛着を持ち、まちづくりに参加する人を増やすようにしてほしい。
矢尾板委員	子供は学校で郷土の歴史を学ぶ機会があるが、大人はそういった機会が少ない。地域への愛着を持てるように子供と一緒に愛着を高められる場所が大事。また、中身が大事になると思う。特別に資料館に来るということではなく、身近に来てもらえる仕掛けづくりが大事。普段から滞留できる工夫が必要。あまり物を置きすぎず、例えば、壁一面をホワイトボードにして参加の余地を残したらどうか。
岩館委員	資料館の完成を楽しみにしている。社会教育を市民とともにつくるということを検討しているが、公民館がなくなるが、文化施設や資料館も一つの現場になる。市民と共にどうしたら子供と一緒に考えてみるとか事前に関わることで親近感が湧くのではないかな。 ステラ・ウェスト、資料館、文京学院大学のストリートができる。調査研究部門でも力を入れられたら良い。事前にスキームを検討し、市民の知的関

発言者	発言の要旨
	心に応えられる施設にすることも大事。 展示計画で4から5への流れが一体的にイメージしづらかった。このまちに住んできた普通の人たちがどのように、まちを作ってきたのかを提示して、市民と共につくる未来という現在につなげられると良いと思う。
田中係長	職場体験の中で中学生の意見を聞く機会を考えている。意見を反映していきたい。
山口委員	小中学校で地域のことを学ぶ単元はあるのか。
高崎専任主査	小学3・4年生で地域のことを学ぶ単元があり、昔の暮らしを学ぶ機会もある。
山口委員	子供が興味を持つと大人も興味を持つので、そういう機会は大事だと思う。
小澤委員	小学3・4年生で地域学習が終わってしまうのは勿体無い。先日6年生の授業で土器を持ってきていただき、大変好評だった。中学生まで地域学習が続けられると良い。
大久保委員	市の発展、川の道、陸の道とあるが、鉄道をきちっと位置付けないといけないと思う。
高崎専任主査	4の中に鉄道を位置付けている。そのほか、特別展示の中でいろいろな特集をしていきたい。
山口委員	神社のお祭りなども取り上げていただけると良い。
中窪委員	ふじみ野駅は富士見市なので取り上げられないのか？
高崎専任主査	区画整理があったことで、まちが形成されてきた。常設展示では全てを網羅できないが、特別展示等で補完していきたい。
中窪委員	6月にお囃子の体験会をしていただけると7月の天王様の祭り本番につながる。
矢尾板委員	コンセプトを考えるのが大事だと思う。常設展示、特別展示で何を取り上げるのか。全てを公共で行うのではなく、市民協働や参画が大事。全てを資料館がやる必要はないと思う。市民と一緒にやるのが良いと思う。
斎藤議長	未来へ続く展示から過去に戻る感じになっているので、4と5を入れ替えてみたらどうか。
矢尾板委員	5は別枠でもいいのではないかと。5は民俗学の範疇なので、歴史に位置付けるには無理がある。歴史としては一本化するというのはいかがか。

発言者	発言の要旨
今井委員	子供の頃からここに住んでいるので、川の道や陸の道という構成はよく分かる。鉄道が出来てまちが変わってきた頃の人々の暮らしということで、5はその中に入れていくような感じなのかなと思う。それが未来ということなのではないか。
岩舘委員	団地や区画整理により住人が入れ替わる中で社会教育が活発に行われてきた。これから社会教育を再構築する中で、社会教育人材をいかに育成するか、また、これまでやってきたことを引き継ぎながら新しい人材を育成することが必要だと思う。資料館だけではなく社会教育士や地域のキーパーソンと一緒に事業ができるとよい。企画展示や調査研究、イベントを考える時にコミュニティ・エデュケーションとしての社会教育を活発化し、そこで学んだ人が次の人材になっていくような展開ができると良い。次の議題にもつながると思うが、その社会教育の展開において資料館でどういう機能が必要で、何ができるのかということだと思う。あわせて、大学で何ができるかも考えていきたい。
田中係長	皆様のご意見を参考に修正、検討していきます。
齊藤議長	議事進行 1 審議事項（1）諮問「市民とともにつくる社会教育事業のあり方について」 答申案検討
大久保委員	答申素案説明 ・資料2 答申素案に基づき説明
事務局 (小林)	専門委員会での議論説明（中間報告） ・資料1 専門委員会報告に基づき説明
千葉委員	長い時間をかけて専門委員会で議論いただきお礼申し上げる。 公民館をなくして、地域課題を解決するというのは矛盾ではないか。そうであれば公民館を残しておけばよかった。社会教育で一番大事なのは地域の課題解決と言われるが、地域課題を市民に聞かれても分からない。 地域の課題で一番問題なのは高齢化だと思う。資料館で古文書部会として活動しているが、以前100人いたが今は7人。どうして増やしていったらいいのか。古文書部会の我々では解決できない。退職年齢も高くなってきている。学びたい人がいない。さらに、地域で学習しなくても民間の中に学習の場が増えている。そういう中で、地域の課題をどうやって解決していくのかと思う。
大久保委員	公民館を継続すればいいという考え方もある。ただ、ふじみ野市の行政経営の中で文化施設として整備するという流れがある。公民館の果たしてきた役割は本当に重要だと思っているが、一方で今の公民館がきちんと役割を果たしているかというと、ゼロだと思う。

発言者	発言の要旨
千葉委員	今の公民館はサークルの活動場所になっているということか。
大久保委員	その通りで、データも出ている。革新的に取り組んでいる公民館もあるが、なぜ多くの公民館で予算や職員が減らされてきているのか？文部科学省の調査でも結果が出ている。公民館とは何なのかという疑問が市民の中にある。地域活動に参加しない人は60%以上に上るが、このままでいいのかというと、そうではない。社会教育という位置づけをきちんと持ちながら、具体的な事業を立ち上げて学習する機会をどう作っていけるかを考えていかないと広がっていかない。 ふじみ野市で公民館を文化施設として位置づけ直したという現状は変えられない。今、社会教育の位置づけをきちんとしておかないと、生涯学習に飲み込まれてしまうのではないか。ましてや文化施設を運営する指定管理者は5年に一度選定される。そういった人たちが地域の人たちと繋がるかは疑問。そういうことを考えながら社会教育のこれからの方向性を考えないといけない。 今、国の中央教育審議会に諮問されている内容をどう地方自治体が具現化できるかが大きな指標になると思う。
山口委員	地域の会館を活用するのは大きなメリットだと思う。高齢者は公民館まで行く手段がない。近くにそういうところがあるとコミュニティというか、顔見知りがいるような場所として大事だと思う。
矢尾板委員	私は大学で地域コミュニティの研究をしている。地域課題解決という点では高齢化の中では地域だけでは難しいので、NPOや地域活動団体との連携がいろんな地域や自治体での取り組みが始まっている。ということと社会教育との関係性をどのように整理するのか、ということだと思う。社会教育から地域課題解決につなげるには人材育成だと思う。それが、生涯学習と違うところ。 自分達だけではなく、他の地域のNPOなどの力を借りながら人材育成をしていくのが重要で、それがこれからの社会教育のあり方なのかなと思う。 今回の諮問では、これからそれをどのように運営していくのが肝だと思う。答申素案について基本的には賛成。まず利用者の視点は非常に重要。審議会だと大きすぎるかもしれないので、地域社会教育運営委員会のような形で、利用者や運営者の方、関係者が入って、地域毎にどういう人材育成のニーズがあるのか、どのような課題があるのかを話し合って、把握していく。それを社会教育委員会や行政の審議会に上げてもらうような仕組みを考えているのかなと思う。社会教育だけではできないので、庁内の横断的な組織で話し合い、関連部署で役割をまとめ、地域に回答を返していくという仕組みができると時代に合ったものになると思う。
山口委員	地域の運営委員会では、サークル活動で培ってきた得意分野を生かしたり、公民館事業の昭和100年大学を受講された方がステップアップとしてボランティアに携わるようなことがあってもよい。人が集まるところに声をかけながら人材を育成していただけたらと思う。

発言者	発言の要旨
矢尾板委員	地域運営委員会や自治会に関わる仕事をしているが、重要なのは計画を作ること。いろんな方の意見を聞いて、5年後、10年後に自分達の地域をこういうふうにしていこうという計画を作る。策定委員会で計画を作り、実施するのが運営委員会。市民にどうですかと聞くだけでは難しいので、コーディネーターやファシリタターが促していく必要がある。社会教育でその役割を担うのは社会教育士なのだと思う。意見を整理する役割が必要。そのように取り組むと、社会教育の本来の趣旨に向かっていけると思う。
岩館委員	いきなり市民の方に課題を出してほしいというのは難しいと思う。キーパーソンとどう関わるかが重要。ふじみ野市で社会教育が活発に行えたのは、中間層が元気だったから。自営業の方々は地域の発展が自分の仕事にも関わるので積極的に関わっていたと思うが、今は自営業の方々も難しい。働いている世代は共働きで時間がなく、以前は中間層に少し余裕があったかもしれないが、背景が違ってきている。しかし、地域の課題に関心を持っている若年層もあり、地域で自分の店を開きたいという人もいる。自治会の中にもそういう方たちがいる。そういう人を見つけてネットワークづくりをしていくのが大事。動けない人に動けと言っても無理なので、どの辺が動けそうかということについては分析が必要だと思う。客観的な条件をどう作り出すかということと、そういう人たちをうまくつなげながら進めていくことが大事だと思う。
石川委員	今回の諮問は公民館運営審議会や利用者懇談会の担ってきた役割をどう引き継ぐ組織にするのかという話である。自分はスポーツをやっているが、同じように高齢化していて、サークル活動はできるが、教育的な背景で前に進めることが皆無。自分達の課題を考えようと言っても出てこない。諮問の答えを出さなければならないところで、「今後どのような組織が、どのような点に留意しながら担っていけば良いか」という所を我々はどんなふうに考えたらいいいのかがすごく難しい。組織を横滑りすればいいという問題ではないような気がする。答申をどうまとめたらいいいのか、組織だけでいいのかなと、疑問に思えてきた。
長谷川委員	私も専門委員会に出ていて迷うところがある。答申案の4(2)の企画立案する組織は審議会にはそぐわないという意見など色々な意見が出ているが、審議会をどうするのが決まらないう議論があちらこちらに行ってしまう感じがしている。専門委員会以外の方からの意見を是非いただきたい。
矢尾板委員	先ほど申し上げた形がいいと思う。4層のイメージの話があったが、3層でよいと思う。運営委員会で話し合われたことが社会教育委員会議に上がり、さらに庁内で検討されればいいのかと思う。 組織について、審議会は市長の諮問機関になるので、規則等で設置し、柔軟に変えられるような形にしておいたほうがいいのか。
千葉委員	西公民館の館長に伺いたい。地域の活動が活発な自治会もあり、地域によ

発言者	発言の要旨
内田館長	って違いがある。地域の活動をどのように支援していたのかわからないが、地域を呼び込まないとこれからの社会教育はだめなのではないかと思う。今までどのように地域の課題を取り上げてきたのか教えてほしい。 地域課題を吸い上げて事業に生かすということがなかなかできていなかった。地域の課題というと様々であるが、外国人が多くコミュニケーションがうまくいかないと土地柄的な問題など様々あり、個別に拾い上げるのは難しい。地元の方や利用者と話すことがあったが、どちらかというと事業の企画は一般的な課題で行ってきた傾向がある。例えば高齢者の課題では、どうやって家から出てきていただいて、楽しく人とつながりながら生きがいをつくるのか。地域というよりは、それぞれの年代、生活の中での大きな課題を取り上げてきた。また、女性、子育てなどの括りで、自分の力で課題を解決できるようなヒントに結びつける事業をやってきた。 地域によってとても活発な所もあるが、自治会で行っているというよりは、その人が周りを巻き込んで展開をしている活動というのが多いと思う。自治会では祭りなどで人のつながりができている実態もある。公民館の事業が地域に踏み込みきれていないのが現状。
大久保委員	地域課題と言葉で言うのは簡単。社会教育の役割は「地域課題を住民と共に解決していく」ということがいろんな答申の中に書かれている。しかし、どれだけ地域の人々が課題を捉えているかという課題もある。ふじみ野市はそこが課題。新しい住民が増えてきている中で昔から住んでいる人との溝が非常にある。ふじみ野市も自治会の組織率が低い。ふじみ野市もベッタウンであり希薄化が進んでいる。地域課題が何かと聞かれて声を出す人はいないが、それでいいわけではない。これだけ広い地域で地勢的にも違う。防犯や防災、環境、交通などのいろんな問題について、地域の人々が何も思っていないわけではない。集合住宅の人は地域のつながりが無いと思っているかもしれないが、どこに持っていったらいいかわからないから課題化ができていない。課題化する仕組みを構築しない限り上がってこない。つまり働きかけ。今後、いろんな地域課題の把握や解決のために企画立案できる組織というのは、いろんな世代の人が集まって自由に意見を交換できるような組織が必要。それを学びにつなげ、学びの成果が生かされていく。知の循環という言葉は綺麗だが、循環していないのが現状。 せっかくふじみ野市が、文化芸術の取り組みをしてきているので、きちんと社会教育の位置付けをして、世代を超えた活動が地域に増えてきていいなというのがわかるような取り組みを期待したい。
内田館長	先ほどの説明に補足したい。地域課題は聞いてもなかなか出てこないが、地域学校協働活動の中で、各学校の学校運営協議会に行政の職員が参加している。そこから行政で何ができるかと考えた時に、公民館ではサークルに協力をいただいて進めている取り組みがある。また、公民館に来られない方もいる中で、社会教育に何ができるかというのが根幹だと思っている。館を飛び越えて自治会に協力をいただいて、事業を広げていく取り組みを始めている。生活の中に社会教育の種があって、自分の生活の課題を知らないうちに

発言者	発言の要旨
	解決したというような取組に着手していきたい。それが我々の目指す地域課題解決のための事業展開だと思っている。
千葉委員	館長の話は納得できた。自治会長の集まりに行って宣伝をしたらいいと思う。皆さんの話を伺っていて、地域の課題を考える組織が必要だと思った。
山口委員	地域の課題、家庭の課題、個人の課題など、民生委員や保育士など身近に接している方の話も重要だと思う。
齊藤議長	議事進行 2 報告事項（1）新資料館名称について
事務局 （小林）	本日の会議で新資料館名称について報告する予定であったが、内部の調整が整っていないので、次回の会議にて報告したい。
齊藤議長	議事進行 2 報告事項（2）上福岡図書館開館時期について
事務局 （小林）	上福岡図書館の開館については令和7年2月1日開館予定となった。開館当日の記念式典、開館前の内覧会等も予定しているので詳細が決まったら案内させていただく。
齊藤議長	議事進行 3 その他
事務局 （小林）	・ 入間地区社会教育協議会社会教育委員部会研修会の出欠確認について ・ 星野道夫写真展と講演会について ・ 第4回会議の日程について（11月下旬を予定）
中窪副議長	閉会の挨拶